

練習を始める前に

全10問 | 小さな練習から、まとまった作文へ

名前 _____

日付 _____

経験を伝える作文でも、意見を述べる作文でも、読み手に何を受け取ってほしいかが出発点です。題材を選び、事実と解釈を分け、根拠が伝わる構成を考えます。お手本は一例です。結論が違って、条件を守り、筋道が通っていれば評価できます。

問1～4 基礎／問5～7 標準／問8～10 応用。自分で書いてから、解答解説の例と確認基準を読みましょう。作文の内容は一つに決まりません。

この教材の「字数」は、横書き原稿欄の使用マス数で数えます。本文だけの文字数とは異なります。題名・氏名は原稿欄の外に書きます。

1行20マス。段落の最初は1マス空けます。改行は次の行へ進み、前の行の余ったマスも数えます。最終段落の末尾より後の空きマスは数えません。

句読点・かぎ括弧は原則1マスです。ただし「。」と直後の閉じかぎ括弧は同じマスに書きます。句読点や閉じ括弧が行頭に来るときは、前の行の最後のマスに前の文字と一緒に入れます。

開き括弧が行末に来るときは、そのマスを空けて次の行から書きます。その空きマスも数えます。数字は原則として漢数字を使います。

以上はこの教材でそろえた練習用のルールです。学校・入試の原稿用紙や字数計算に別の指示がある場合は、その指示を優先します。

取り組み終わったら、できた問に印を付けましょう。

問1〔 〕 問2〔 〕 問3〔 〕 問4〔 〕 問5〔 〕

問6〔 〕 問7〔 〕 問8〔 〕 問9〔 〕 問10〔 〕

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

名前

日付

問1 読み手に応じて目的を絞る

材料から読み手を一つ選び、目的と中心をそれぞれ一文で書きなさい。二つの読み手のどちらを選んでもよい。

考える材料

図書委員会で、本の返却箱を入口付近へ移す案が出た。理由は、返却場所を探す生徒がいたためである。まだ決定していない。読み手の候補：会議を欠席した委員／案を検討する図書委員会。

条件

- 1 読み手・目的・中心を区別する。
- 2 未決定の案を、決定事項として書かない。

確認 読み手が何を理解・判断できれば、目的を達成したと言えるか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問2 事実と解釈を分ける

材料から事実を二つ、そこから考えられる解釈を一つ書きなさい。さらに、その解釈を確かめるための調査を一つ挙げなさい。

考える材料

架空の観察記録：昨日の昼休み、図書室で返却場所を探している生徒を三人見かけた。入口の案内は、本棚の陰にあった。観察したのは、その日の十分間だけである。

条件

- 1 事実は記録の範囲から書く。
- 2 解釈は断定せず、可能性として書く。
- 3 調査で何を確かめたいか示す。

確認 一日の観察を、全校生徒の傾向に広げていないか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問3 主張を支える材料を選ぶ

中心となる主張を支える材料を二つ選び、記号を書きなさい。さらに、不適切な材料を一つ選び、使えない理由を書きなさい。

考える材料

主張：班の話合いでは、最初に各自の案を書く時間を設けたい。

架空の記録：ア 発言が重なり、案を書き留められなかった。／イ 教室の壁が白かった。／ウ 付箋に書く方法では、班の四人全員の案を並べて比べられた。／エ この方法なら全国の全員が満足するはずだ。

条件

- 1 課題と改善後の変化を、一つずつ選ぶ。
- 2 使えない理由を、中心との関係か根拠の有無で説明する。

確認 その材料があることで、主張を納得してもらいやすくなるか。

基礎の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問4 提案の筋道を組み立てる

学級委員会への提案として、四つの部分を「提案→理由→方法→見直し」の順に並べなさい。最後に、方法と見直しを分ける意味を一文で説明しなさい。

考える材料

- ア 二週間後に使いにくい点を集めて修正する。
- イ 提出物の確認表を学級で試したい。
- ウ 教科ごとに期限と提出先を一枚にまとめる。
- エ 連絡が複数の場所に分かれ、確認に時間がかかるからだ。

条件

- 1 四つ全部を使う。
 - 2 指定の役割に対応させる。
 - 3 実施して終わりにしない理由を説明する。
-
-
-
-

確認 各部分が、直前の疑問に答える順序になっているか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

名前

日付

問5 抽象的な説明を具体化する

短い文を、材料を使って二文か三文に書き直しなさい。何を変え、何が変わったかが分かるようにしなさい。

考える材料

短い文：発表の準備で協力の大切さを学んだ。

架空の材料：班員が同じ資料を重複して調べていた／最初に調査項目と担当を共有した／次の作業では重複が減った／結果を持ち寄って不足を補った。

条件

- 1 行動の変化と結果を入れる。
- 2 二文か三文にする。
- 3 材料にない効果を追加しない。

確認 「協力した」の一言で省いていた中身が伝わるか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問6 異なる立場を踏まえる

提案への懸念を受け止めたうえで、実施条件を加えた二文を書きなさい。提案そのものを取り下げてよいが、その場合も理由と代案を示すこと。

考える材料

提案：昼休みの図書室で、本を紹介し合う時間を設ける。

懸念：静かに読みたい人の妨げになる。

利用できる場所：図書室に隣接する交流スペース。

条件

- 1 懸念を一つ具体的に取り上げる。
- 2 実施条件か代案を示す。
- 3 相手を否定する言い方を避け、二文にする。

確認 懸念への答えが、単なる「気を付ける」で終わっていないか。

標準の練習

問1～7は、作文につながる部分練習

問7 根拠に合わせて結論を直す

下書きの問題点を一つ挙げ、結論を二文で書き直しなさい。改善の可能性と、まだ確かめる必要があることの両方を残しなさい。

考える材料

架空の下書き：班で発言前に付箋へ案を書いたところ、四人全員の案を比べられた。だから、この方法を使えば、どの班でも必ず話し合いが成功する。

条件

- 1 一つの班の経験を、全体へ広げすぎない。
- 2 改善の可能性を示す。
- 3 次に確認することを具体的に書く。

確認 修正後の結論は、示された根拠から言える範囲か。

問8 経験から得た考えを伝える

応用 | 使用マス数 120～160マス

名前 _____ 日付 _____

班の調査活動を振り返り、協働について学んだことを、同級生へ伝える作文を書きなさい。以下の架空の経験を使ってよい。

考える材料

班で地域の防災を調べた／各自で調べ始めたため資料が重複した／調査項目と担当を共有した／重複が減った／結果を持ち寄ると、避難場所の説明が不足していると気づき、補った。

条件

- 1 使用マス数：百二十～百六十マス、一段落。
- 2 課題・行動・結果・学んだことを含める。
- 3 経験から言える範囲でまとめる。

構成メモ

課題：何がうまくいかなかったか

行動と結果：何を変えたか

考察：協働の何を学んだか

問8 経験から得た考えを伝える 本文

使用マス数 120～160マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 結論を支える経験を、本文の中で指し示せるか。

読み返して直したいところ

直した理由

問9 資料の扱いを振り返る

応用 | 使用マス数 160～200マス

名前 _____ 日付 _____

地域紹介の発表準備について、下の架空の経験を使い、情報を伝える際に大切だと考えたことを書きなさい。

考える材料

川の写真だけを見て「一年中、水がきれいだ」と書いた／友人から撮影時期を問われた／写真の撮影日と資料の出典を確認した／一年中とは確かめられず、写真から言える範囲へ説明を直した。

条件

- 1 使用マス数：百六十～二百マス、二段落。
- 2 一段落目に経験と修正、二段落目に考えたことを書く。
- 3 写真だけでは確認できない点を明示する。

構成メモ

経験：どの説明に問題があったか

修正：何を調べ、どう直したか

考察：読み手に何を示すべきか

問9 資料の扱いを振り返る 本文

使用マス数 160～200マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160
																				180
																				200

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 資料が示す事実と、自分が加えた解釈を区別できるか。

読み返して直したいところ

直した理由

問10 経験の意味を読み手へ伝える

応用 | 使用マス数 180～200マス

名前 _____

日付 _____

「読み手を意識して伝え方を変えた経験」を、後輩への助言になる作文にまとめなさい。自分の経験でも、下の架空の経験でもよい。出来事だけでなく、その判断をした理由まで書くこと。

考える材料

架空の経験：学校説明会で、小学生へ部活動を紹介する原稿を書いた／練習名などの専門用語を並べていた／友人に、初めて聞く人には分からないと指摘された／一日の練習の流れと具体的な動きを入れた／難しい言葉を言い換えた／伝え手と読み手では前提知識が違っていると気付いた。

条件

- 1 使用マス数：百八十～二百マス。二段落。
- 2 一段落目に課題・変更した内容・変更の理由を書く。
- 3 二段落目に経験から得た考えと、今後の行動を書く。
- 4 読み手の反応など、確かめていない結果を事実として加えない。

構成メモ

課題：誰に何が伝わらなかったか

判断：何を、なぜ変えたか

考察：後輩へ伝えたい考え

問10 経験の意味を読み手へ伝える 本文

使用マス数 180～200マス | 横書き 1マス9mm

本文を書く欄

																				20
																				40
																				60
																				80
																				100
																				120
																				140
																				160
																				180
																				200

数え方 段落頭・途中の改行で残る空きも数え、最後の文の後の空きは数えません。

確認 後輩が、自分の伝え方を考え直す手がかりになるか。

読み返して直したいところ

直した理由